

SUIRLO NEWS



国立大学法人 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 [サイロ]

CONTENTS

▶01 研究推進

THE 世界大学ランキングにおける信大の現状

項目	詳細	内訳	配分
教育	研究者による評価	15%	30%
	教員当たり学部学生数	4.50%	
	学士授与数当たり博士授与数比率	2.25%	
	教員当たり博士授与数	6%	
	教員当たり収入	2.25%	
論文引用(学問分野の違いを調整)			30%
研究	研究者による評価	18%	30%
	教員当たり研究収入	6%	
	教員当たり論文数	6%	
国際	外国人教員比率	2.50%	7.50%
	外国人学生比率	2.50%	
	共著論文数	2.50%	
産業からの収入	教員当たり産学連携収入	2.50%	2.50%

国境を超えた人の移動が増加するグローバル時代、大学も国際的に比較評価されます。この際、参考として広く利用されるのが、THE (Times Higher Education) ランキングなどの国際的大学排名です。国際的大学排名は、目的、実施機関によって様々な評価方法を用い世界中で実施されています。評価方法の公正性や信憑性には議論の余地があるものの、教育サービスの消費者の判断基準として世界的に使用されているため、国際的大学排名への対応は、大学の競争力向上において重要な手段の一つになります。そのためURA室では、2013年から上海交通大学世界学術大学排名に、2015年からはTHEの世界大学排名にも参加致しました。

表1 評価項目および指標

THE	Teaching	International Outlook	Research	Citations	Industry Income	Overall	Rank
2016	20.8	20.3	8.3	22	31.6	17.6425	735
2017	↑22.3	↑21.1	↑11.4	↑26.2	↑37.3	↑20.485	↓762

表2 信州大学の昨年度と今年度の点数・順位比較

主な国際的大学排名は、大学から提出する本データ及び、実施機関独自の調査に基づいて点数化されます。2016年9月21日に結果が発表されましたTHE2017では、信州大学のランキングは、約1000大学の中601〜800位です。前回のTHE2016では約800大学の中601〜800位でした。

そこで今回は、501位〜798位まで全大学の項目ごとの点数から大学の順位を推定し、前回の結果と比較してみました。注目されるのは、前回の結果と比較したとき、いずれの項目も点数が上昇しているにもかかわらず、大学の総合順位は753位から762位へと下がっていることです。実は、今回は、501位〜798位の大学全体で点数が上がっています。平均点で見ると前回の21.56に対し、今回は25.50と3.94点の上昇となります。点数が底上げされる中、順位を下げていていることは、他の多くの国内大学にも共通しています。前回、501〜600位のグループにランクインしていた国内大学は、広島大学、東京農工大学、大阪市立大学、金沢大学、慶應義塾大学の5大学でしたが、今回は広島大学のみとなり、他の4大学は601〜800位に順位を下げました。

URA室 林 宣倫

研究推進

▶01 THE 世界大学ランキングにおける信大の現状

▶02 平成29年度科研費秋公募締め切り

産学官連携

▶03 COMPAMED2016 国際医療機器技術・部品展

開催報告

地域連携

▶04 信大連携コーディネーター研修 [自治体職員向け]

開催報告

先鋭領域融合研究群

▶05 次代クラスター vol.1 研究センターの紹介

- ▶ 航空宇宙システム研究センター
- ▶ 食農産業イノベーション研究センター

▶06 SUIRLO メンバー紹介

お知らせ
シラバスから信大教育と社会課題の接点を知る

▶02 研究推進

平成29年度科研費の秋公募が締め切られました

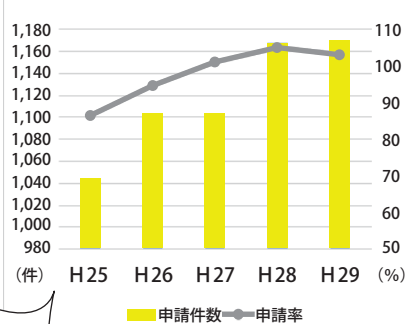
11月7日に平成29年度科学研究費助成事業(科研費)の秋公募が締め切られました。信州大学の新規申請件数は昨年より13件減少し、791件でした。また、継続申請を合わせた総申請件数は、過去最高の1,170件となりました。種目別に見ると基盤Cの申請数が伸びています。これは新設された「挑戦的研究(開拓・公募)」の採択予定件数が従来の「挑戦的萌芽研究」よりも絞られたことによる影響と推測されます。

また、学術研究・産学官連携推進機構では、全件アドバイザー制度の一環として149件の申請支援をさせていただきました。アンケート結果(回収61名、回収率40.9%)では、9割以上の先生方に「参考になった」との感想をいただいております。来年度の申請に向けて、アンケートにご記入いただいたご意見を精査してまいります。

来年度まで制度変更が続きますが、春よよい結果が出ることを願うばかりです。

URA室 土田 拓
研究支援課 石川 佳紀

科研費新規+継続申請の推移



▶03 産学官連携
COMPAMED 2016
国際医療機器技術・部品展



上段：出展ブースの様子 / 下段：打合せスペースでの商談の様子

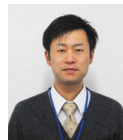
信州メディカル産業振興会（SMIA）事務局・信州大学学術研究・産学官連携推進機構／会員数・地域企業等113機関）では、会員企業様5社と共同で平成28年11月14日（月）～17日（木）の4日間、ドイツのメッセ デュッセルドルフで開催された「COMPAMED 2016」に出展しました。

COMPAMED（来訪者：約19,000人）は、欧州最大の医療機器展示会であるMEDICA（来訪者：約127,800人）と併設開催される医療機器向けの部品・材料・加工技術の商談を目的とした展示会です。

COMPAMEDはMEDICAほど来



URA室
櫻井 和徳



産学官地域連携課
山崎 守雄

場者が多くありませんが、MEDICAに出展している医療機器製造メーカーをはじめ、ビジネスのテーマを持った来場者が多いのが特徴です。

共同出展した企業様の中には、出展ブース内の打合せスペースで熱心に商談を行う場面もあり、出展の成果が見受けられました。

4日間の会期中の来訪者、売上見込みは、共同出展全企業合計数で、来訪者数：約450名、売上見込額：約5億円／年と大きな成果を得ることができました。

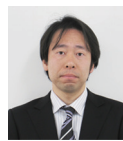
COMPAMEDは、欧州展開の玄関口として重要な展示会であるため、毎年継続して出展することにより、信州大学と企業様との共同研究

成果の海外展開や売上げ拡大に繋がると考えられます。

毎年出展している共同出展企業様からは、リピーターの来訪者が多く見受けられ、大きな成果に繋がったと報告を受けました。

このことから出展を継続し、認知度を上げていくことが大変有用であると思います。

▶04 地域連携
信大連携コーディネータ研修
～自治体職員向け～を開催



産学官地域連携課
赤川 雅志

11月18日（金）の午後、松本市のあがたの森に多くの自治体職員のみなさんにお集まりいただき信州大学連携コーディネータ研修を開催しました。本研修は、これまで、主に地域の金融機関の職員を対象に行われ、今年も既に2回開催しています。本制度は、信州大学の地域連携の一環として、平成23年度よりスタートし、研修の修了者を「信州大学連携コーディネータ」に委嘱し、大学と地域を結んでいただいています。金融機関を対象としたコーディネータには、主に得意先の企業と大学の仲介をし、技術相談や共同研究の増加に努めていただいています。

しかしながら、いまま多くの地域課題に直面しているのは、地域の自治体であり、信州大学としてもCOC/COC+などを通じて、地域の課題解決に向けてその責務を果たすことを中期目標計画に掲げ、地域の自治体とこれまで以上に緊密な関係を持つことが必要と考えています。

当日は、「元ナンパ師」の異名も持つ塩尻市職員の山田崇氏を講師にお招きし、その絶妙なトークで、これまでの活動内容やこれからの自治体職員に求められる役割について講演いただきました。

休憩を挟み、いよいよ今回の研修の肝であるワークショップに入りました。設定されたテーマごとに分かれ、自治体職員、大学教職員、学生による混成チーム



研修を終えガッツポーズする参加者

を形成し、討論を開始。最初は多くの参加者が緊張していましたが、ワークショップをコーディネータする林准教授と山田氏が場を和ませます。年齢、職業などが異なる人々がそれぞれの立場から発言。次第に会場の熱は帯びていきます。途中で、テーブル・ホストを残して、今度は自分が興味をもつテーブルに移動します。再び、元のテーブルに戻り、白熱した議論の結果を発表しました。

ワークショップの後、研修を終えた37名の自治体職員に委嘱状を濱田学長から授与し、最後は、参加者全員で記念写真を撮影しました。

今回の結果を分析し、来年度も研修を実施し、信州大学と地域の自治体との連携を深めていきます。

特集

05 先鋭領域融合研究群
次世代クラスター研究センターの紹介

UOL.1

全5センターのうち、今回は2センターをご紹介します！



Shinshu University,
Research Center for Aerospace Systems (SURCAS)

航空宇宙システム研究センター



航空宇宙システム研究センター長
工学系 教授 佐藤 敏郎

地方の活性化を目的とした地方創生事業が全国各地で展開されており、信州大学は諏訪圏におけるSUWA小型ロケットプロジェクトや飯田下伊那地域における航空機システム共同研究講座とおし地方創生の一翼を担っています。

なぜ、飛行機やロケットがこんなにも注目されているのでしょうか。航空機産業は我が国の次世代基幹産業に位置付け



航空宇宙システム研究センター (SURCAS) の「テイクオフ！シンポジウム2016」を、平成28年11月23日(祝)に開催しました。

られ、様々な施策が国策として進められています。一方、特定用途向けの民間小型人工衛星のニーズが世界的に高まってくると予想され、小さな衛星をコストの安い小型ロケットで飛ばす新しい宇宙ビジネスが拡大していくと予想されています。

我が国の将来の基幹産業の一つとして期待される航空宇宙分野の教育・研究を推進するため、工学系、繊維学系、社会科学系の教員の結集を図り、航空宇宙システム研究センターが平成28年10月1日に設置されました。航空宇宙に関連する技術分野は機械・電気電子・情報通信・材料・加工・計測……と広範で裾野が広いことが特徴ですが、当センターでは高度な関連要素技術を保有する様々な専門分野の教員の参画を図り、航空宇宙システムの要素技術研究をおし次世代航空機・小型ロケット・小型衛星の部品・装備品の高度化とモジュール化・システム化を推進します。また、これらの研究成果を社会の第一線で社会実装していく若手人材の育成も併せて推進していきます。

食産業イノベーション研究センター

Center for Agricultural and Food Industry (CAFI)

本センターは、もともと工学部の食・

農業の先端学際研究会という産学官の連携組織における活動を母体に、新しく大学内の5学部連携の研究センターとしてスタートをしました。専門分野の異なる12名の教員及び3名の特任教員が参画し、幅広い領域をカバーできるセンターと自負しております。本センターは、食産業の競争力強化のため、食産業の基盤である農学、医学に加え、先端工学技術及び人文社会学の知見を活用した食産業の基盤技術の開発、及び学際融合研究による学問領域の発展を目的としています。そのため、信州大学の農学、医学、工学、人文社会学各分野の多くの関連技術を学際融合させ、発展的な技術開発を行います。

センターには2つの研究部門とその下に5つの研究グループが存在します。研究部門は生産技術研究部門と高付加価値化研究部門であり、前者の部門には栽培技術研究グループ及びロボティクス研究グループが、後者の部門には高機能食品研究グループ、高度食品加工プロセス研究グループ及び食の消費社会学研究グ

ループがあります。

本センターの目指すべき次世代の食と農業技術については左にポンチ絵で示しました。工学的な技術を取り入れた効率的な農業と農産物の高付加価値化、マーケット戦略を見据えたブランド化などにも対応していく予定であります。これまでもどちらかというと個人研究が主体でありましたが、センター内では情報共有を行い、異分野横断型での研究を推進していく予定であります。



食産業イノベーション研究センター長
工学系 教授 天野 良彦



センターの目指すべき次世代の食と農業技術

国立大学が法人化した平成16年から、研究・産学官連携支援を専門業務として



学術研究支援本部長
杉原 伸宏

います。当時は全国的にも希有な存在でしたが、現在は各大学に、URAだけでも約900名余が配置され、当該業務の重要性が認知されつつあります。私も、更に鋭意邁進して参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

本学は、論文分析(平成22・26年・TOP1%論文割合が全大学で8位、国際共著論文割合が全大学で10位)や、共同研究等分析(平成26年度・共同研究数が全大学で11位、特許等実施件数が全大学で13位)から、研究と産学官連携の高度な両立が強みといえます。これぞ正に、本学がイノベーション・ユニバーシティとして飛躍できる証だと確信します。

信州大学の研究・教育活動をビジネス創造や地域

社会の課題解決に繋げる活動(リエゾン Liaison・仏語)とその推進組織マネジメントが私の使命です。健康長寿産業の創出や防災減災



産学官・地域総合戦略推進本部長
林 靖人

をしながら、協働で社会ニーズ(課題)に対応したもののづくりや政策策定を進める産学官連携の基盤づくり事業「信州リビング・ラボ」を推進しています。また、長野県の特徴である中山間地域や自然環境、文化芸術資源を未来へと繋ぐ地域人材と学生の育成、定着を加速する事業「地(知)の拠点整備事業(COC)」、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に取り組んでいます。

▶06 SUIRLO メンバー紹介

産学官連携向けの競争的資金の申請書の作成を得意としています。特に、教員では作成



URA室
赤崎 寿樹

を苦手とするビジネスプランの作成、知的財産戦略、行政政策との関連などの作成で定評があります。平成27〜28年度の採択実績は、NEDO「次世代人口知能・ロボット中核技術開発」、中堅・中小企業への橋渡し「研究開発促進事業」、省エネルギー技術開発事業の重要技術に係る周辺技術・関連課題の検討、「総務省『戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)』、農林水産省『革新的技術開発・緊急展開事業』、農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業」などです。研究費の獲得でお悩みの方は、ご連絡いただけますと幸いです。

11月にSUIRLOに着任しました。研究・産学官連携支援業務は12年目です。



URA室
阿部 紀里子

これまでに、山梨大学、浜松医科大学、首都大学東京、慶應義塾大学と、関東甲信地域の国公私立大で、医療機器、次世代電池、再生医療、医薬品など様々な研究プロジェクトや技術移転に携わってきました。各種事務手続から知的財産の管理活用、契約交渉、交流ネットワーク構築、イベント企画運営にWEBサイト管理、広報活動などの業務経験があります。初心に返り皆様のご期待に沿えるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。福岡県出身。岡山大学卒。修士(工学)。MBA・1級知的財産管理技能士。

お知らせ
シラバスから信大教育と社会課題の接点を知る

平成28年度から、シラバス検索システムに新しい項目が追加されました。

信州大学では「社会問題を学際的に学べる教育環境の構築」を目的に「信州大学の教育シズ体系化」を進めています。こうした取り組みを可視化する第1弾として、信州大学が進める「グローバル人材」や「地域志向人材」の育成、そして県内自治体から挙げられた優先度の高い社会課題に取り組み、解決できる人材の育成に繋がる授業にラベル付けを行いました。これらをもとに、社会に求められる人材の育成に向けて全学的な取り組みを強化していく予定です。

現在、信州大学シラバス検索システムでは「グローバル志向」「信州志向」と7つのテーマから関心のある項目を選択することができます。システムは一般にも公開されていますので、ぜひご利用ください。産学官連携・地域総合戦略推進本部 白神 晃子

長野県がかかえる地域課題



国立大学法人 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 [サイロ]

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 CSMIT 内

TEL:0263-37-2091 FAX:0263-37-3049

WEB サイト : <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirlo> リニューアルしました!

